

「車社会の日米比較」

ブルース・L・バートン

2004.9.20 放送

一ヶ月ほど前の話しになりますが、私は今年の夏休みをアメリカの西海岸で楽しむことができました。日本での生活が長いので、アメリカは母国ながらも、半分外国のような感じもして、行くたびに新しい発見があります。今回は、プロ野球のマリナーズで有名なシアトルを拠点として、ワシントン州とオレゴン州をずっと車で回ってきました。そして、運転しながら、アメリカの道路事情やアメリカ人の交通マナーをじっくり観察することができました。私は日本でも運転することが多いので、今回の旅行が日米両国の車社会の共通点と相違点について考える良い機会となりました。結論から言うと、日本は車や道路をめぐる制度面にしても、ハンドルを握るドライバー個人のマナーにしても、米国に比べて遅れており、学ぶべき点が多いという印象を強く受けました。

まず制度の面からですが、米国で一つ感心したのは、道路渋滞の緩和に対する行政の取り組み方でした。アメリカは日本よりずっと広大な土地があるので、道路渋滞はないだろうと思われるかもしれませんが、そんなことはありません。アメリカでも、日本と同様、都会や都市近郊では、かなり激しい渋滞がみられます。日本でも最近、たとえば高速道路の料金所付近の渋滞を緩和するため、料金が自動的に引き落とされる ETC システムが導入されていますが、アメリカの渋滞緩和政策は、これをはるかに越えるものがあります。アメリカでは、車の流れをスムーズにするだけでなく、交通量そのものの減少を目指した制度があります。たとえば、高速道路に乗ると、「カープールレーン」と言って、二人以上で乗車するときしか走れない優先車線があります。渋滞の時は、一般車線よりずっと車の量が少ないので早く走ることができます。つまり複数の人が同じ車に乗って相乗り通勤すると、渋滞を避けることができるわけです。とても効果的な制度で、日本でもぜひ導入すると良いと思います。

次にアメリカで感動したのは、道端のゴミの少なさです。日本ではご存知のように、国道などの道端は、ゴミに埋め尽くされた場所がたくさんあります。しかし、アメリカではゴミがほとんどありません。その理由の一つは、やはり制度の違いです。アメリカでは、車の窓からのぼい捨ては立派な犯罪で高い罰金が科せられます。また、これが面白いのですが、高速道路の清掃を目的としたスポンサー制度があって、地元の企業などが、道路の一定距離に対する清掃費を払う代わりに、その事実を記した看板を道沿いに立てることができます。その看板が会社の宣伝になるだけでなく、寄付したお金は税金の控除の対象にもなるので、企業はすすんで高速道路の清掃スポンサーになります。

しかしアメリカの道がきれいなのは、こうした制度のお陰だけではありません。もう一つの理由は、アメリカのドライバーたちが、車の窓からのぼい捨ては行けないという考え方をしっかり持っているからです。一方日本では、自然環境を大事にしよう、公共の場をきれいに使おうという考え方は、残念ながらまだあまり定着していないように思えます。

考え方、もしくは心の持ち方の違いは、ぼい捨ての問題だけではなく、その他の交通マナーにも現れています。アメリカは広いので地域差もあろうかと思いますが、とにかく私が行った西海岸では、ドライバーたちの交通マナーは、日本人のマナーよりずっといいという印象をうけました。

たとえば交通信号に対する考え方です。今回の旅行で一つ驚いたのは、アメリカのドライバーたちが、信号が赤になってからではなく黄色になるだけでもブレーキを踏んで止まることです。日本でも本来ならそうすべきですが、視聴者の皆さんもご存知のようにこのルールはほとんど守られていません。日本では信号が黄色になったとき、ブレーキではなくアクセルを踏むのが普通で、赤になっても平気で渡る人も多くみられます。私が住んでいる町では最近、状況がさらに悪化してきて、信号が赤になったとき、たまたま前の車が止まっても、後ろから追い越して赤信号を突っ走る車すら見受けられます。外国から見ると、これにはまったく啞然とします。

次の例は横断歩道です。横断歩道は、アメリカでも日本でも、歩行者の優先で、歩行者が道を渡ろうとしたとき、走っている車が皆止まって待たなければならないことになっています。私が見た限り、アメリカでは、この決まりはきちんと守られていましたが、日本では、横断歩道で歩行者を優先するドライバーがむしろ少ないように思います。個人的な話で恐縮ですが、私は毎朝 8 時に次男と一緒に家を出て徒歩で地元の学校まで送ってきます。数年間やっているにも関わらず、横断歩道で止まって私たちが渡るのを待ってくれるドライバーに、ほとんど出会ったことがありません。

次にアメリカで感心したのは、バイクも車と同じように交通のルールをちゃんと守ることです。日本では、車の運転手のマナーもよくないのですが、バイクの運転手のマナーはもっと悪いといえます。たとえば最近では、車線を完全に無視して車と車との間をくぐりぬけるバイクを多くみかけます。私もこのあいだ車の運転中にそんなバイクに後ろから追突され、相手は振り向きもせず逃げていきました。

時間の関係で具体例はこれくらいにしたいと思いますが、とにかく私が今回見た限りでは、アメリカ人の交通マナーのほうが日本人のマナーよりずっといいと感じました。もしそうだとすれば、この違いはどこから来るのでしょうか？

国民性とか文化の違いとして説明することもできるかと思いますが、私は、そういう抽象的なことよりは、単純に心の余裕の問題だと思っています。両国に住んだ者として自信を持

って言えますが、アメリカは国土の広さからしても、ゆったりと生活しやすい国だといえます。それに対して日本は狭い土地にたくさんの方が住んでいますので、この面だけを見ても、アメリカのようにゆったりと暮らすことができません。その上に、バブルがはじけてからは、経済的にも社会的にも苦しい状況が続き、その分だけ、時間的余裕や人に譲る、人に優しくしようとする心の余裕が国民の間になくなっていないかと思います。こうした生活のゆとりのなさが、当然、交通のマナーの面にも現れてきていると思われま

す。

しかし理由がどうであれ、日本の交通事情をこのまま放っておくわけにはいきません。交通事故がいつ、どこで起こってもおかしくない状況というのは問題です。残念ながら、日本という国が全体的にもっとゆとりのある、暮らしやすい国に変わらない限り、根本的な解決は望めないと思いますが、次善の策として、我々ドライバーの一人ひとりが、身近なところで問題の解決に努めなければいけないのではないのでしょうか。

車を使わなくていいときは思い切って公共の交通機関を利用しよう、どうしても自動車を使わなければならないときは、同じ方向に行く人と一緒に乗っていこう、運転している間は努めて周りの車や特に歩行者に気配りしよう、何よりも心の中に少しでも余裕を持とう、こうした心構えが必要だと思います。視聴者の皆さんも今度ハンドルを握るときには、是非この話を思い出してくださればと思います。

それでは。